

朝日まちなみプラン～歩き集えるくらしやすいまちづくり～について

先月号に引き続き、朝日まちなみプランの内容について発信してまいります。今月号は朝日まちなみプランの第2章（現状と課題）から第5章（施策の展開）について紹介させていただきます。

第2章 現状と課題

■歴史的資源等



東海道沿道では、街道の面影を残す常夜燈や一里塚跡などの歴史的資源が見られ、箇所寺院が建造されている他、八王子祭で有名な小向神社、善照寺、苗代神社、井後神社といった複数の寺社が点在しています。

■道路幅員状況



東海道の延長は約2.6kmであり、道路幅員は一律ではありませんが5m程度の狭い道路が多く見られます。歩車分離はされておらず、歩道は設置されていません。

■ゴミ置場



道路沿いにゴミ集積所がありますが、縄生、小向、柿で収集箱の種類や収集箇所の数にばらつきがあり、統一されていない状態です。

課題

- ①歴史的風致の保全・再生 ②風情ある旧家屋の維持 ③地域資源のネットワーク形成
④新旧住民の交流施設整備 ⑤交通安全対策

第3章 基本理念

【将来像】『東海道の歴史と田舎のまちの風情が感じられる活気と住みやすさのある町』

- 目標1 東海道の歴史的風情を活かした朝日町らしさの創出（課題①～③に対応）
目標2 新旧住民や来訪者が交流するコミュニティを育む（課題④に対応）
目標3 生活者や歩行者にやさしい道をつくる（課題⑤に対応）